

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	おちゃのみずじょしだいがくふぞくこうとうがっこう				②所在都道府県	東京都
26～30	①学校名	お茶の水女子大学附属高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1学年3学級、3学年9学級 全校生徒 360名	
普通科	120	120	120		360		
⑥研究開発構想名	女性の力をもっと世界に ～目指せ未来のグローバル・リーダー～						
⑦研究開発の概要	グローバルな社会的課題の発見・解決を目指し、探究的な学習を行う必修の課題研究「グローバル地理」、「持続可能な社会の探究Ⅰ・Ⅱ」と選択科目の「グローバル総合」、「グローバル総合アドバンス」、および確かな基礎学力と広い教養の涵養を目指す「教養教育」の教育課程の研究開発を行う。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>グローバル女性人材として、自国の文化を含む多文化理解、共感力、協働精神を有し、国際社会の平和と持続可能な発展に寄与する意欲と能力を持つ人材の育成を目指す。また、自律的に学び、考え、行動し続ける姿勢、チャレンジ精神の育成にも取り組む。文部科学省の全学推進型のグローバル人材育成推進事業に採択されているお茶の水女子大学の教育研究の全資源を日常的に活用し、大学と一体となって研究開発を進め、次のような資質・能力を持った生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確かな基礎学力と広い教養を身につけ、社会の諸課題に高い関心を持つ生徒</li> <li>・ 社会の様々な分野における問題を発見し、異なる文化的背景を持つ人々と共生、協働して、解決する意欲と能力を持つ生徒</li> <li>・ 英語を含む言語活用能力、論理的思考力、交渉能力、プレゼンテーション能力、ICT活用能力の高い生徒</li> </ul> <p>また、グローバル人材育成推進事業に取り組む大学（主にお茶の水女子大学、東京工業大学）との高大接続のあり方の研究にも取り組む。</p>					
		<p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校生徒の65%が将来海外で学び国際的な活動に従事することを希望している。生徒の社会の諸課題への関心は高く、それらを解決しようとする意欲があり、そのために必要とされる能力も高い。しかし、現状は海外体験の機会が不足しており、その改善が課題である。一方、これまで「総合的な学習の時間」に行ってきた課題研究、イオンアジア・エコリーダーズや台北市立第一女子高級中学など海外との交流事業は、一定の成果を上げているが、より組織的・計画的な指導体制の整備によって、さらなる人材育成の効果が期待される。また、本校が長年取り組んできた「教養教育」は、グローバル人材に求められる能力の育成に効果があると考えられる。よって次の仮説A～Cを設定する。</p> <p>A：課題研究「グローバル総合」、「グローバル総合アドバンス」の実施          B：課題研究「グローバル地理」「持続可能な社会の探究Ⅰ・Ⅱ」の実施          C：学校設定科目「教養基礎」を含む教養教育の充実</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>「総合的な学習の時間」を活用し教育課程の特例を必要としない本校の取組は、他校でも実践可能である。生徒による成果報告会、公開教育研究会における授業公開、成果報告書、SGH専用ホームページなどで情報発信を行い、成果の普及に努める。また、研究の向上・改善のため、SGH校のネットワークを構築し、定期的な情報交換を行う。</p>					

⑧ -2 課題研究	<p><b>(1) 課題研究内容</b></p> <p>国際協力とジェンダー、経済発展と環境、国際交渉力の不足、異文化間の摩擦、資源・エネルギー、人口、貧困・格差など、グローバルな社会的課題に対する興味・関心を高め、問題を発見・解決する探究的な学習を通して、異なる文化的背景を持つ人々と共生、協働して、国際社会の平和と持続可能な発展に寄与する意欲と能力をもつ人材を育成するための教育課程の開発を行う。</p> <p>例えば、グローバル総合「国際協力とジェンダー」では、世界各地が抱える貧困や紛争、そうした地域における女性の地位の低さという課題に目を向け、現状を理解するとともに、女性の立場に配慮した援助や開発といった新たな動きにも注目し、課題の背景を理解した上でその解決・解消にどのような協力ができるのか、広い視野から考察する。</p> <p>また、「経済発展と環境」では、開発と環境についてアジア各国の高校生と情報交換、討論を行い、課題解決の方法を模索する中で、コミュニケーション能力を養い、公共性、倫理観を備えた未来のグローバル・リーダーの育成を目指す。</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b></p> <p>3年間を通して必修科目「グローバル地理」（1年生の学校設定科目）、「持続可能な社会の探究Ⅰ・Ⅱ」（2・3年生の総合的な学習の時間）で、生徒全員がグローバルな社会的課題の背景・要因を学び、その解決に向けてフィールドワークを含む探究的な学習を行う。また、グローバルな諸課題やビジネスに関する関心・意欲・能力の高い生徒に対し、2年次に選択必修の「グローバル総合」（10人程度の少人数編成で3～4講座を開講し、生徒は各自の興味・関心や進路に応じて講座を選択して受講する）、3年次に選択の「グローバル総合アドバンス」を開講し、より専門的な内容を取り上げ、海外研修を含む探究的な学習を行う。</p> <p>検証評価としては、課題研究受講前後において、グローバルな課題やビジネスに対する意識や関心・意欲・態度、課題設定および解決能力、言語活用能力、コミュニケーション能力、交渉能力、海外への進出意欲などがどう変化したか、アンケート、授業中の観察、レポート、定期考査や検定試験などによって検証・評価する。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b>      なし</p>
⑧ -3 上記以外	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <p>文系理系のコース分けをせずに、学校設定科目教養基礎「国語」「数学」「英語」を含む幅広い必修科目を履修する教育課程で「教養教育」を推進する。</p> <p>生徒の受講態度、意識、進路などの調査結果を分析し、教養教育の成果を確認する。</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b>      なし</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</b></p> <p>①お茶の水女子大学の教育研究の全資源を日常的に活用する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザーボード「大学教授団」</li> <li>・「附属高校生向け公開授業」</li> <li>・外国語 e-learning システム</li> <li>・外国語検定試験 (TOEIC、TOEFL、IELTS 等) の受検機会</li> <li>・図書館や情報基盤センター</li> <li>・大学に在籍している世界各国の留学生</li> <li>・大学が行うサマープログラム</li> </ul> <p>② A F S 等の留学機関から留学生を受け入れ、日常的な異文化体験機会を提供する</p> <p>③ 卒業生や関係諸団体の専門家による講演会「グローバル講座」の実施する</p> <p>④ 自国文化理解のための伝統文化鑑賞教室等のプログラムを実施する</p> <p>⑤ 自主自律で取り組む自治会活動を行わせる</p> <p>⑥ 台北市立第一女子高級中学等、海外の教育研究機関との連携と交流を行わせる</p> <p>⑦ 海外で生活する卒業生との交流等、作楽会（同窓会）と連携する</p>
⑨ その他 特記事項	<p>お茶の水女子大学高大連携特別教育プログラム（H17.4～現在）</p> <p>東京工業大学高大連携教育（H24.3～H33.3）</p>

ふりがな	お茶のみずじょしだいがくふぞくこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	お茶の水女子大学附属高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(29年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	120人
	SGH対象生徒以外:		62人	90人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 全員がSGH対象生徒なので、全員が何らかの研鑽に取り組むことを目標にする。(分母は1学年120人)								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	25人
	SGH対象生徒以外:		17人	12人	人	人	人	人
目標設定の考え方: SGH実施による波及効果を期待するが、海外の安全や保護者の経済状況の影響を受ける。(分母は1学年120人)								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	75%
	SGH対象生徒以外:		%	65%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 初期値が高いので、この高水準を維持・向上させたい。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		人	10人	人	人	人	人
目標設定の考え方: グローバルな社会的課題に関わるものへの積極的な参加/応募を進めることで入賞者の倍増を目指す。(分母は1学年120人)								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	25%
	SGH対象生徒以外:		16%	14%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 2年生終了時のベネッセ「英語コミュニケーション能力テスト」スコア680以上として設定								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	人
	SGH対象生徒以外:		人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(32年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	75%
	SGH対象生徒以外:	51%	63%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 今後国際化に重点を置く大学の増加により、進学の割合は増加が見込まれる。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	4人
	SGH対象生徒以外:	3人	0人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 本人の意欲・関心以外に保護者の経済力に左右される。(分母は1学年120人)									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	30%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 1年次から必修で取り組む「グローバル」関係の科目の履修は専攻分野の選択に影響を与えると期待する。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	25人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 留学、海外研修の定義によって数値が変わることが予想される。 また、本校では大学院進学率が高く、そこでは上昇が見込まれる。(分母は1学年120人)									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(29年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	1人	10人	人	人	人	人	人	40人
	目標設定の考え方：「グローバル総合」の受講生40名は、基本的には全員が海外研修を行う。（分母は1学年120人）							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	1人	13人	人	人	人	人	人	120人
	目標設定の考え方：必修の「持続可能な社会の探究Ⅰ・Ⅱ」の受講者全員が国内研修を行う。（分母は1学年120人）							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	0校	1校	校	校	校	校	校	3校
	目標設定の考え方：語学研修のみの提携校は含まない							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	4人	6人	人	人	人	人	人	52人
	目標設定の考え方：大学教員は1講座あたり3人を想定、留学生等は1講座あたり2人×5回を想定、4講座の合計数を算出							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	5人	5人	人	人	人	人	人	20人
	目標設定の考え方：1講座あたり5人を想定、4講座の合計数を算出							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	5人	4人	人	人	人	人	人	10人
	目標設定の考え方：「グローバル総合アドバンス」受講生を中心に積極的な働きかけを行い、倍増を目指す。（分母は1学年120人）							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	3人	3人	人	人	人	人	人	5人
	目標設定の考え方：附属中学からの帰国校生を受け入れているがこれは含まない(分母は1学年120人)							
h	先進校としての研究発表回数							
	0回	0回	回	回	回	回	回	2回
	目標設定の考え方：公開教育研究会や全附属関係では毎年発表は行っているが、テーマはグローバルに限定していない。指定後はグローバルを中心に研究発表の機会を設ける。							
i	外国語によるホームページの整備状況							
	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
		○						○
	目標設定の考え方：							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方：							

<調査の概要について>  
1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	360	360	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							